

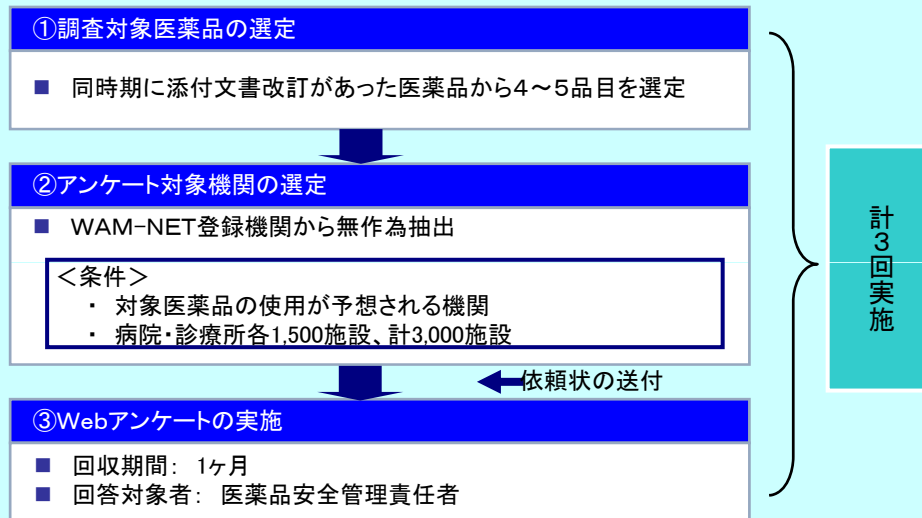
平成21年度 適正使用情報提供状況確認等事業 結果概要

◆調査目的

- 製造販売会社から医療機関への医薬品添付文書改訂等の適正使用情報提供状況の確認
- 医療機関における適正使用情報の院内周知状況の確認
- (独)医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービス(プッシュメール)への登録推進

◆調査方法

- 全3回にわたるWebアンケート調査を実施。
- 各回3,000箇所(病院、診療所各1,500箇所)の医療機関を調査対象とした。



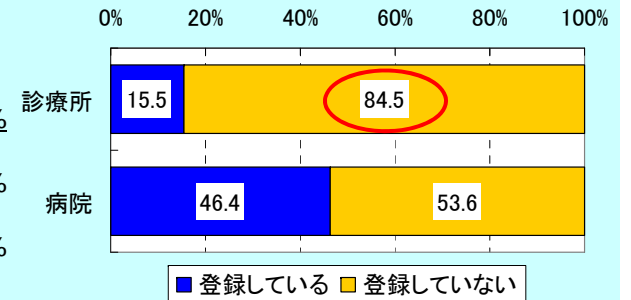
◆調査結果①

- 回収率: 14.6% (9,000箇所に依頼状を送付、うち1,309施設が回答)
- 医療機関運営形態: 病院81.7%、診療所18.3%

◆調査結果②

●プッシュメール登録状況

- <全体>
登録:40.7%、非登録:59.3%
- <病院>
登録:46.4%、非登録:53.6%
- <診療所>
登録:15.5%、非登録:84.5%

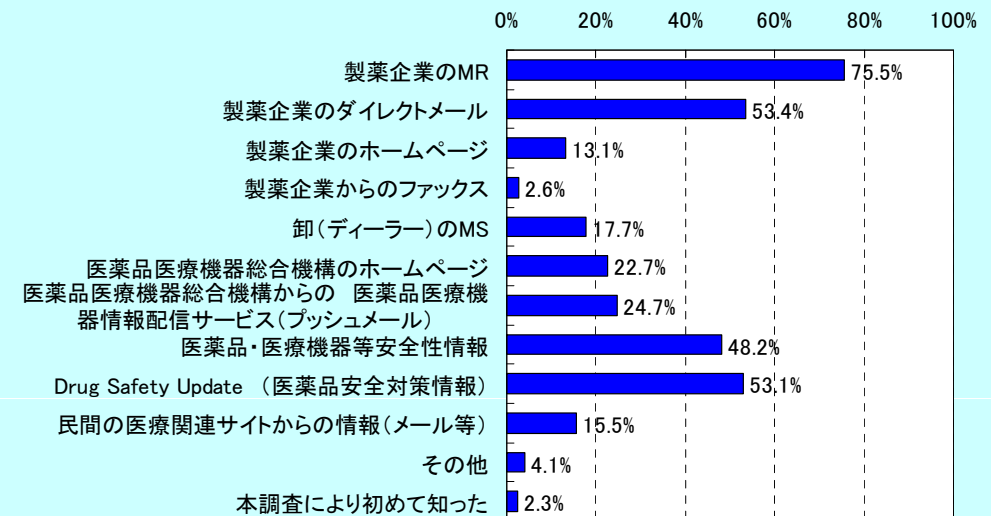


●添付文書改訂情報の入手状況

- 調査対象医薬品のうち、使用履歴がある医薬品の添付文書改訂情報を、何らかの手段で入手していた医療機関は全体の96.2%

●添付文書改訂情報の入手手段【複数回答】

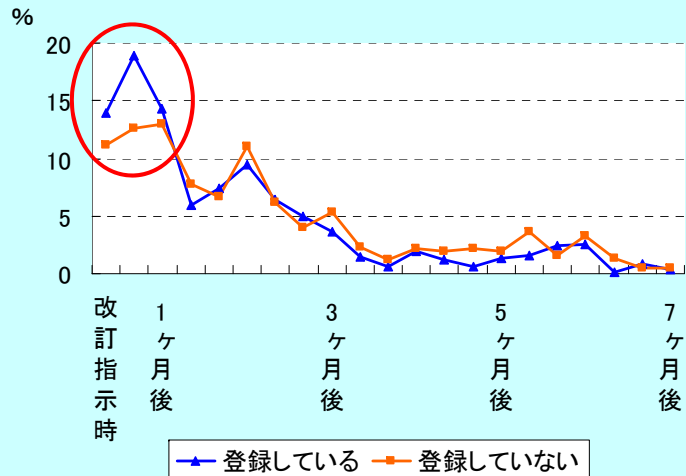
- 「製薬企業のMR」「製薬企業からのDM」「DSU(医薬品安全対策情報)」「医薬品・医療機器等安全性情報」が多く利用されている



平成21年度 適正使用情報提供状況確認等事業 結果概要(続)

◆調査結果③

- 添付文書改訂情報の入手時期
- プッシュメール登録群は改訂指示から1ヶ月以内情報入手割合が高い

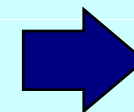


●添付文書改訂情報の入手の際の問題点【自由回答】

- 製薬企業によって情報伝達能力(MR教育)に差がある(71件)
- 情報の重要度・緊急度が不明(63件)
- 情報が多すぎる・改訂頻度が高すぎる(43件)
- 情報提供時期・内容に統一性がない(26件)
- 情報を確実に入手できているか不明(15件)

◆まとめと考察

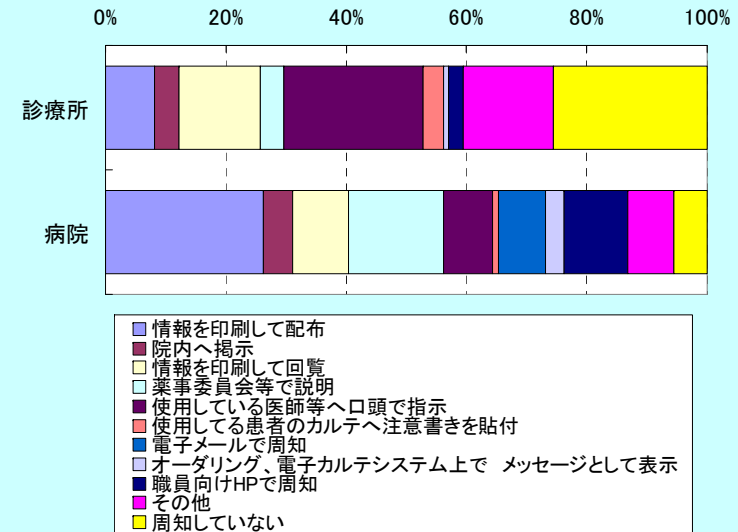
- 情報提供手段としてのプッシュメールの役割・・・「気付き」の機会の提供、
公的機関による正確な情報伝達(MRによる情報提供の補完的役割)
- 能動的な情報入手手段の活用促進・・・公的機関のHP等へのアプローチの起点としてのプッシュメールの活用
- プッシュメールによる早期情報入手の可能性・・・プッシュメールによる情報提供の迅速性



**診療所を中心とした
プッシュメール登録の推進**

◆調査結果④

- 添付文書改訂情報の周知方法【複数回答】
- 診療所では「医師等へ口頭で指示」「情報を印刷して回覧」が多い
- 病院では「情報を印刷して配布」「薬事委員会等で説明」が多い



●添付文書改訂情報の周知の際の問題点【自由回答】

- 現場職員の情報の重要性への認識不足(43件)
- 情報量が多いため重要情報の選択や周知が困難(31件)
- 確実な周知方法が確立していない(31件)
- 人員不足・時間不足で周知が困難(19件)
- 情報発信・周知後の周知徹底ができない(12件)